

# 第7章 EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、iExpress5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。

## 起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

**重要** 本体にディスクレイアウトコントローラボードが搭載されている時は、EXPRESSBUILDERを使用する場合にのみ、LANコンソールリダイレクション機能を無効にしてください。

### ● EXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する

EXPRESSBUILDERを本体のCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法で本体を起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本体をセットアップします。



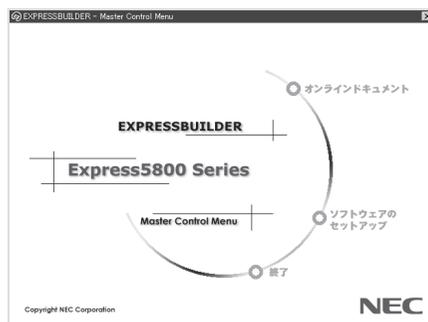
- 重要**
- 本装置以外のコンピュータで起動しないでください。故障の原因となります。
  - メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

### ● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



# EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOS の設定を間違えると、CD-ROM から起動しない場合があります。EXPRESSBUILDER を起動できない場合は、CMOS Setup ユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CDROM」を1番上に、「Floppy」を2番目に設定する。

## 起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体のCD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)が、電源をOFF/ONして本体を再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。

**シームレスセットアップ**  
iExpress5800シリーズでは使用しません。

**ツール**

**ヘルプ**  
EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。

**終了**  
EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の検定からOS、各種ユーティリティのインストールまでを単一のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

ハードディスクを挿入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用していただき、通常のセットアップをこの機能が代替って行われます。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を準備し、フロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。

このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータF」と呼びます。

# シームレスセットアップ

iExpress5800シリーズでは使用しません。

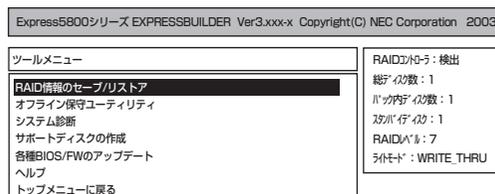


「シームレスセットアップ」を実行するとハードディスクドライブの内容が失われます。

## ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



## RAID情報のセーブ/リストア

iExpress5800シリーズでは使用しません。

## オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、本体の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本体に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。



- オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。保守ユーティリティを起動すると、メニューにヘルプ(機能や操作方法を示す説明)がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。
- オフライン保守ユーティリティが起動すると、クライアントから本体へアクセスできなくなります。

### ● オフライン保守ユーティリティの起動方法

オフライン保守ユーティリティは次の方法で起動することができます。

- － EXPRESSBUILDERからの起動

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」から「ツール」→「オフライン保守ユーティリティ」の順に選択すると、CD-ROMよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

- － フロッピーディスクからの起動

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツール」→「サポートディスクの作成」で作成した「オフライン保守ユーティリティ起動FD」をセットして起動すると、オフライン保守ユーティリティが起動します。

## ● オフライン保守ユーティリティの機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

### ー システム情報の表示

プロセッサやBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

### ー システム情報の管理

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。

システム情報のバックアップの方法については、次に示す手順を参照してください。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外には行わないでください。なお、リストア(復旧)を行う時、BIOSのバージョンが、バックアップ(退避)した時のバージョンと異なる場合、BIOS情報の復旧はできません。

次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。  
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]ー[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。  
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

---

## システム診断

システム診断は装置に対して各種テストを行います。「EXPRESSBUILDER」の「ツール」メニューから「システム診断」を選択して診断してください。

### ● システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- ー 本体に取り付けられているメモリのチェック
- ー CPUキャッシュメモリのチェック
- ー システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック



システム診断を行う時は、必ず本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。



ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

## ● システム診断の起動と終了

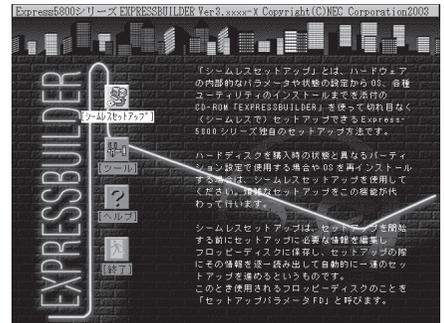
システム診断の起動方法は次のとおりです。

- ① シャットダウン処理を行った後、本体の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
- ② 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
- ③ 電源コードをコンセントに接続し、本体の電源をONにする。
- ④ 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使ってシステムを起動する。

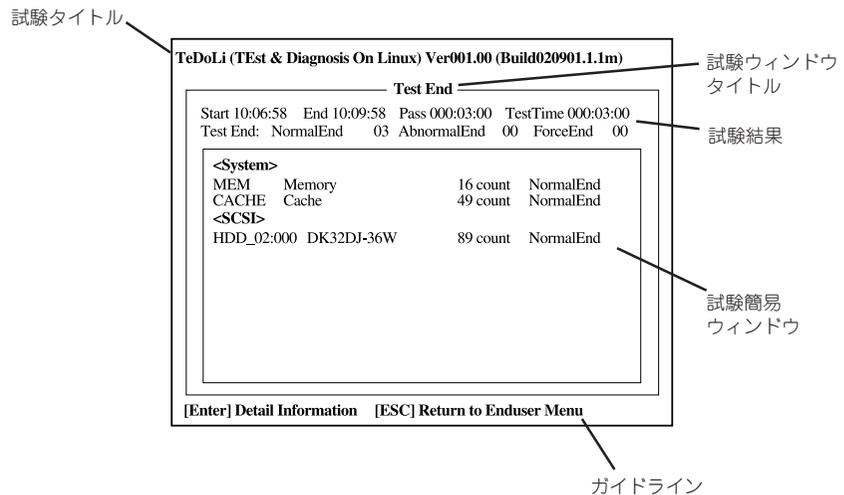
EXPRESSBUILDERから起動すると画面にメニューが表示されます。

- ⑤ 「ツール」を選択する。
- ⑥ 「ツールメニュー」の「システム診断」を選択する。

システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。



診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。



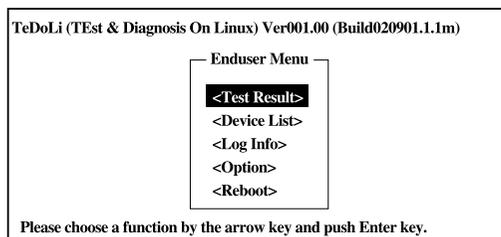
- 試験タイトル: 診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。
- 試験ウィンドウタイトル: 診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。
- 試験結果: 診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。
- ガイドライン: ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。
- 試験簡易ウィンドウ: 診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。

エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

- ⑦ 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

以下のメインメニューを表示します。



- <Test Result>: 前述の診断終了時の画面を表示します。  
<Device List>: 接続されているデバイス一覧情報を表示します。  
<Log Info>: 試験ログを表示します。エラーメッセージをフロッピーディスクへ保存することができます。フロッピーディスクへ記録する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、<Save>を選択してください。  
<Option>: ログの出力先の変更します。  
<Reboot>: システムを再起動します。

- ⑧ 上記メインメニューで<Reboot>を選択する。  
再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。
- ⑨ EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。
- ⑩ 本体の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
- ⑪ 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。
- ⑫ 電源コードをコンセントに接続する。
- 以上でシステム診断は終了です。

---

## サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- **Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**

iExpress5800シリーズでは必要ありません。

- **Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**

iExpress5800シリーズでは必要ありません。

- **ROM-DOS起動ディスク**

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- **オフライン保守ユーティリティ**

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

---

## 各種BIOS/FWのアップデート

インターネット「NEC 8番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、マザーボードのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』: <http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。  
アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

---

## ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

---

## トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

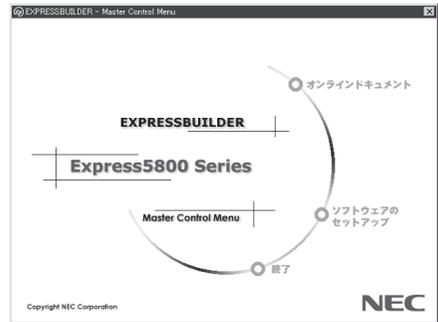
# マスターコントロールメニュー

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE



マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるポップアップメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



- CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。
- マスターコントロールメニューからインストールできるソフトウェアや閲覧ができるドキュメントの中にはiExpressシリーズに対応していないものもあります。

# バンドルソフトウェア

EXPRESSBUILDER内に格納されているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

## ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは本装置に自動でインストールされる監視用アプリケーションです。詳細は添付のCD-ROM「バックアップCD-ROM」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent Ver.3.8(Linux版) ユーザーズガイド」を参照してください。

 **チェック** ESMPRO/ServerAgentに通報するためには、通報設定を行う必要があります。添付のバックアップCD-ROMの中にあるオンラインドキュメントの「4.1基本設定」を参照して通報設定を行ってください。

## ESMPRO/ServerManager

詳細は、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のインストレーションガイドを参照してください。

## エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

 **重要** エクスプレス通報サービスのご利用については、保守サービス会社にお問い合わせください。

## FastCheck

FastCheckは、iExpress5800シリーズでは使用しません。

## ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、iExpress5800シリーズでは使用しません。

## テープ監視ツール

テープ監視ツールは、iExpress5800シリーズでは使用しません。

